

介護人材不足解消の試みの中で (1)

—ベトナム人介護技能実習生のモチベーションと仕事満足度—

Trial of Solving Shortage of Careworkers (1)

Motivation and Professional Satisfaction in Vietnamese Caregiver Students

小平 達夫

KODAIRA Tatsuo

【要約】

現在、全国的に介護職員不足のため、高齢者福祉施設では利用者の従来どおりの受入が困難な状況にある。この一つの解決策として“介護外国人技能実習生”に期待が寄せられている。日本政府とベトナム政府との間で、同国からの介護人材の受入拡大で合意がなされたが、日本語能力に対する要件、職歴要件と、入国要件は他の諸外国と比べてハードルが高い。

本稿では、日本への入国時におけるベトナム人介護技能実習生の介護の仕事に対する満足度、モチベーション、介護観、援助行動の質を測定し、介護業務に対する職務意識と意識構造を明らかにした。結果、介護業務に対するモチベーションと仕事の満足度の高さが示唆された。

キーワード ベトナム人 介護技能実習生 モチベーション 仕事満足度

I はじめに

厚生労働省の「第7期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について」（平成30年5月21日）¹⁾によると「今年度（2018年度）からの第7期介護保険事業計画を基に、『将来、必要となる介護人材』の数を推計すると、2020年度には約216万人、2025年度には約245万人で、今後、年間6万人程度の介護人材確保が必要である。」とのことである。

介護外国人技能実習生に関しては、2017年11月1日（平成29年11月1日）²⁾の「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」（平成28年法律第89号。以下「技能実習法」という。）の施行にあわせ、外国人技能実習制度の対象職種に介護職種が追加されることが行われている。

2018年12月8日（平成30年12月8日）、第197回国会（臨時会）³⁾において「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律」が成立している。この改正法は、在留資格「特定技能1号」「特定技能2号」の創設、出入国在留管理庁の設置等を内容とするものであり、「特定技能1号」として介護も認定している。厚生労働省介護給付分科会資料（H30.11.22）⁴⁾では、2018年8月末現在（平成30年8月末現在）の全体の有効求人倍率1.46倍に対し介護平均では3.97倍と、今や介護現場は“人材不足”から“人材

枯渇”とも言うべき状況である。

また、介護福祉士を養成する大学・短大・専門学校 の 2018 年 4 月における高校卒業者の入学生数は全国で 6,856 名である。2014 年 4 月の高校卒業者の入学生数 10,392 名と比べて、4 年間で 3,536 名減少している⁵⁾。

現在、全国的に介護職員の不足により、高齢者福祉施設では利用者の受入が困難なケースもある。この状況への一つの解決策として“介護外国人技能実習生”に期待が寄せられた。日本政府とベトナム政府との間で、既に同国からの介護人材の受入拡大が合意されている。(日本経済新聞(2019年7月25日))⁶⁾

ベトナム国民の平均年齢は 30.4 歳⁷⁾と若く、世界中からのベトナム人への介護人材としてのニーズが高い。一方で、日本における介護技能実習生としての職歴要件には、現地での看護師課程を修了した者または看護師資格を有する者という条件があり、台湾、韓国と比べて職歴や保有資格に関しての条件が厳しい。

このような状況の下、大阪府を拠点とする社会医療法人愛仁会⁸⁾、社会医療法人ペガサス⁹⁾、社会医療法人生長会¹⁰⁾で構成するコンソーシアムが、2018 年 6 月にベトナムのハノイ市に「大阪 APS スキルラボ」¹¹⁾を立ち上げた。コンソーシアムの中堅介護職員によるベトナム人介護技能実習生への、現地での日本式介護教育と日本への送り出しを目的としたものである。

今回、上記コンソーシアムとの共同研究で、大阪 APS スキルラボによるベトナム人介護技能実習生の第 1 期生(前期) 11 名(入国 2019 年 4 月 23 日)に対して質問紙による調査を行った。

II 調査目的

入国時におけるベトナム人介護技能実習生の介護に対する満足度、モチベーション、介護感、援助行動の質を測定し、ベトナム人介護技能実習生の介護業務に対する職務意識と意識構造を明らかにすることを目的とする。

III 調査方法

1. アンケート調査

- (1) 調査時期：2019 年 4 月 28 日
- (2) 調査場所：社会福祉法人生長会 特別養護老人ホーム ベルファミリア
- (3) 調査対象：社会医療法人愛仁会、社会医療法人ペガサス、社会医療法人生長会で構成する APS コンソーシアムのベトナム人介護技能実習生 1 期生(前期入国) 11 名
- (4) 調査方法：記名自記式の質問紙調査(ベトナム語)にて実施した。調査対象者には、調査の趣旨を説明した。
- (5) 調査項目：全員同じ設問にて実施。

1) 教育歴

- 2) 介護職への希望度合
- 3) 組織特性
- 4) 仕事満足度
- 5) 介護肯定感
- 6) 援助行動の質

(6) 回収率：回答者数 11 名 回答率 100%

IV 結果

1) 教育歴

表 1 教育歴

最終学歴	人数	割合
高校卒	0	0.0%
専門学校卒	0	0.0%
短大卒	9	81.8%
大学卒	2	18.2%

性別は女性 11 名 (100.0%) であった。年齢は全員 20 代 (平均年齢 22.9 歳)、教育歴は看護系短期大学卒業 9 名 (81.8%)、看護系大学卒業 2 名 (18.2%) である。

2) 介護職への希望度合

表 2 介護職の希望度合

介護職の希望の強さ	人数	割合
希望しなかった	0	0.0%
あまり希望しなかった	0	0.0%
希望した	0	0.0%
とても希望した	11	100.0%

介護職の希望度合は 11 人とも「とても希望した」(100.0%) であった。個別面接調査においても、介護職を選んだ理由として高齢者が好きであったり、この先のベトナムの高齢者の増加を見越してであったり、現在の日本の高齢社会と介護人材の不足への貢献という回答があった。また、全員高齢者に対して肯定的なイメージを持っていた。

3) 組織特性

表 3 組織特性

組織特性	思わない	あまり思わない	思う	強く思う	無回答
①利用者本位の介護方針がとられている	0	0	1	10	0
②相談や指導を受けられる体制になっている	0	0	2	9	0
③教育や訓練の機会が十分である	0	0	3	8	0
④意見を言える機会が十分である	0	0	4	7	0
⑤自分は職場に受け入れられている	0	0	1	10	0

組織特性については、大阪 APS 介護スキルラボに対する評価である。「①利用者本位の介護方針が取られている」において 10 名が「強く思う」と回答しており、入国前教育において日本で行われている利用者を尊重した介護を理解していることが分かる。また、他の回答から大阪 APS 介護スキルラボという組織への満足度の高さや自己の承認欲求が満たされる環境であることが分かった。

4) 仕事満足度

表 4 仕事満足度

仕事満足度	思わない	あまり思わない	思う	強く思う	無回答
①やりがいのある仕事だと感じますか。	0	0	3	8	0
②満足感のある仕事だと思いますか。	0	0	1	10	0
③創意工夫が生かせる仕事だと思いますか。	0	0	4	7	0
④魅力のある仕事だと思いますか。	0	0	4	7	0
⑤有益な仕事だと感じますか。	0	1	5	5	0
⑥社会的に尊重されている仕事だと思いますか。	0	0	5	6	0
⑦楽しい仕事だと思いますか。	0	0	2	9	0

仕事の満足度においては「②満足感のある仕事だと思いますか。」という問いに対して 10 が「強く思う」と回答した。一方で、「⑤有益な仕事だと感じますか。」という問いに 1 名が「あまり思わない」と回答をしており、肯定的な回答が最も低い質問項目でもあった。原因としては、ベトナムには”介護“という概念がまだ浸透しておらず、”介護“に該当する言葉がなく、ベトナム語で”お世話“と訳すことが多い。彼女たち全員がベトナムの看護師課程を修了していることもあり、介護を仕事としては有益に感じていないと考える。また、「楽しい仕事だと思いますか。」という問いに 8 名が「強く思う」、2 名が「思う」と回答している。実際にまだ介護現場に出でおらず、今後実習先にて利用者や職員との関係性、現場業務を経験することにより、どのような推移を辿るか見ていきたい。

5) 介護肯定感

表 5 介護肯定感

介護肯定感	思わない	あまり思わない	思う	強く思う	無回答
①利用者の介護を義務感からではなく、望んでしている。	0	0	4	7	0
②利用者を知ることが楽しいと感じる。	0	0	0	11	0
③利用者の介護をするのが、自分の生きがいになっている。	0	0	10	1	0
④利用者の介護をすることによって、満足感が得られる。	0	0	6	5	0
⑤介護することにより利用者と親密になっているように感じる。	0	0	3	8	0
⑥利用者が小さいことに喜ぶのを見てうれしくなる。	0	0	2	9	0
⑦利用者を介護していて逆に元気づけられたり、励まされたりする。	0	0	2	9	0
⑧利用者が介護に感謝したり、喜んでいと感じる。	0	0	5	6	0
⑨介護のおかげで人間として成長したと思う。	0	0	3	8	0
⑩利用者の介護をすることで学ぶことがたくさんある。	0	0	8	3	0
⑪介護することは自分の老後のためにもなると思う。	0	0	4	7	0
⑫介護のおかげで難しい状況に対処する力など自信がついた。	0	0	4	7	0
⑬利用者を最後まで見てあげようと思う。	0	0	5	6	0
⑭介護の苦労があっても前向きに考えていこうと思う。	0	0	5	6	0

「②利用者を知ることが楽しいと感じる。」において、全員が「強く思う」と回答しており、利用者＝高齢者に対して好印象を抱いていると考える。一方、「③利用者の介護をするのが、自分の生きがいになっている。」においては、「強く思う」が1名であり、残る10名は「思う」という程度であり、この項目も注視していきたい。

介護に対する肯定感は全項目の結果から判断して全体的に高いが、配属前であり、自分の介護に対する捉え方、大阪 APS スキルラボでの日本人介護教員からの情報やそれからのイメージでの回答である。

6) 援助行動の質

表 6 援助行動の質

援助行動の質	思わない	あまり思わない	思う	強く思う	無回答
①利用者のための仕事に専門的知識や技術はほとんどいらない	10	1	0	0	0
②利用者のための仕事は社会的に重んじられている	0	0	10	1	0
③いつも明るい気持ちで利用者のお世話をすることは難しい	5	3	3	0	0
④利用者にはもっと良い生活ができるようにしてあげるべきだ	0	0	1	9	1
⑤利用者のお世話をすることはそれほど大切ではない	11	0	0	0	0
⑥利用者のお世話を一生懸命やってもあまり効果はない	11	0	0	0	0
⑦利用者のお世話をしていると、もっと頑張って仕事をしなければという気持ちになる	0	0	1	10	0
⑧利用者をお世話する仕事は世間の人々から高く評価されている	1	1	9	0	0
⑨利用者のお世話をすることは気疲れする	3	6	1	0	1
⑩利用者は自分でできることはもっと自分ですべきである	0	0	4	7	0
⑪利用者のお世話をしていると、イライラしてくる	8	3	0	0	0
⑫利用者のお世話をしても満足感はいくらも得られない	9	2	0	0	0
⑬利用者のお世話をすることは誰にでもできる仕事ではない	0	4	7	0	0
⑭利用者の問題は、他の人々の問題に比べて、それほど深刻ではない	8	2	1	0	0
⑮介護のお仕事は同じことの繰り返しで退屈である	8	2	1	0	0
⑯介護の職員は社会的に高い評価を受けていない	7	3	1	0	0
⑰利用者には気持ちよくお世話をしてあげられる	0	0	8	3	0
⑱利用者は必要なサービスを受ける資格がある	0	0	3	8	0
⑲利用者のお世話をすることを見下している人もいる	0	4	7	0	0
⑳利用者のお世話をすることは、心あたまる経験である	0	0	10	1	0
㉑利用者は当然うけるべき尊敬を受けていない	7	2	2	0	0
㉒利用者のお世話をしていると、自分が必要とされていることを痛感する	0	4	7	0	0
㉓介護の仕事はそれ相応の社会的評価をうけていない	5	6	0	0	0
㉔利用者には扱いにくい人もいる	0	0	11	0	0
㉕利用者はやってもらって当然だと思っている。	0	7	2	2	0

介護の概念のないベトナムにおいて、「①利用者のための仕事に専門知識や技術はほとんどいらない」には「思わない」に 10 名が回答している。入国前の介護教育において、日本で行われてる介護について理解していることが分かる。

また、「⑥利用者のお世話を一生懸命やってもあまり効果はない」に対しても、11 名全員が「思わない」と回答しており、同じく日本で行われている介護の自立支援のための援助という考えを理解していることが分かる。

「⑤利用者のお世話をすることはそれほど大切ではない。」という項目には全員が「思わない」と回答をしており、社会的意義のある仕事として捉えており、「敬老思想」も関係していると考えられる。

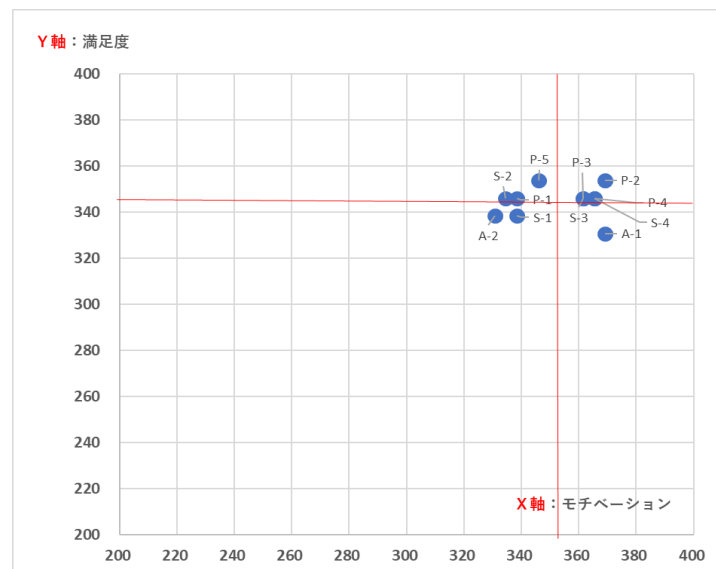
一方で「⑮介護のお仕事は同じことの繰り返しで退屈である。」という項目に「思う」が 1 名、「⑯介護の職員は社会的に高い評価を受けていない。」という項目に「思う」が 1 名おり、同一人物ではなかったが“介護”という仕事に対して評価をしていないが介護職を選んだ技能実習生がいた。

7) 仕事に対する「満足」と「モチベーション」のポイント及び散布図

表 7 モチベーション・仕事満足度ポイント

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	Max	Min	Max-Min	Average
モチベーション	369	331	338	369	362	365	346	338	335	362	365	369	331	38	353
満足度	331	338	346	354	346	346	354	338	346	346	346	354	331	23	345

表 8 仕事に対する「満足」と「モチベーション」の散布図



「IV仕事満足度」「V介護肯定感」「VI援助行動の質」の項目から「仕事満足度」と「仕事に対するモチベーション」に該当する項目を抽出し、重みづけを行い、X軸をモチベーション、Y軸を満足度として散布図を作成した。

「仕事満足度」に該当する 13 項目（調査項目：IV～VIのうち斜線太字）を抽出し、また「仕事に対するモチベーション」に該当する 26（調査項目：IV～VIのうち太字）項目を抽出し、それぞれの回答に 1 から 4 ポイントを付けて、その合計ポイントを項目合計数にて除して 100 を掛けた。

「仕事満足度」の最高点は 354 ポイント、最低点は 331 ポイントであり、その差は 23 ポイントであった。平均点は 344.8 ポイントであった。「モチベーション」の最高点は 369 ポイント、最低点は 331 ポイントで、その差は 38 ポイントであった。平均点は 352.8 ポイン

トであった。実際に介護業務を行う前であり「仕事の満足度」はイメージ的な回答であろうと考えられる。「仕事に対するモチベーション」の平均ポイントは、「仕事の満足度」より高い値を示した。

これまではベトナムにて全員が同じ時間を共にし、同じ教育を受け、入国直後も全体的にひとまとまりの傾向にあった。現時点では、プロットはひとまとまりになっているが、今後の配属先の環境や個人の特性で変化していくと考える。今後、数年間に渡り、今回の技能実習生の動向を、因果関係も含めて調査をしていきたい。

III おわりに

介護技能実習においては、「日本語能力試験の N4 に合格している者その他これと同等以上の能力を有すると認められる者」という日本語能力要件¹²⁾があるが、今回調査を行ったベトナム人技能実習生 11 名中 9 名が N3 を取得している。N3 取得者はある程度の日常会話は可能で、コミュニケーション能力が求められる介護職においては N3 以上が不可欠と考える。N4 レベルの技能実習生は日本語能力要件を満たしていても、実際に会話をしてみると職場の同僚や利用者とのコミュニケーションにおいて苦勞すると予想する。

今回アンケートを実施したすべての技能実習生ともに明るく、前向きで、礼儀正しく、敬老思想を有しており、配属先の職員や利用者と良好な関係性を築けると予想できる。しかし、文化の違いがあるので、困難に突き当たる事例が見受けられた。その困難を自分自身の力や周囲のサポートを受けながらどのように克服していくのか、今後の継続的な調査から観察することができると考える。

現在の介護現場は“人材不足”を超えて“人材枯渇”となっている。このような環境の中で、人材還流と技術移転を目的とした内閣官房が主導する「アジア健康構想」¹³⁾の下、外国人技能実習制度の対象職種に介護職種が追加されたことは一定の評価ができる。ここで重要なことは、受入側である日本の施設側が彼女たちを“安価な労働力”と捉えるのではなく、彼女たちを通じて“技術移転”を図るという明確な意識を持つことだと考える。

本調査と同時に、個別にディプスインタビュー（質的調査）も行った。ディプスインタビューでは、対象者の考え・思い・行動実態を深く、詳細に掘り下げて聴取でき、質問への答え・反応に応じて、回答の裏側にある理由・動機・願望・不満・価値観など、対象者の深層に入り込んで質問し、明らかにしていくことができた。今後とも“量的調査”と“質的調査”を合わせながら技能実習生の動向を掴み、両調査結果を統合することにより新たな知見を見出せると考える。

注

- 1) 厚生労働省「第7期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について」、
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000207323.html>、2020年1月4日閲覧
- 2) 法務省 入国管理局 厚生労働省 人材開発統括官「新たな外国人技能実習制度について」、https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11800000-Shokugyououryokukaihatsukyoku/0000204970_1.pdf、2020年1月4日閲覧
- 3) 衆議院法制局「衆法情報」、
http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_annai.nsf/html/statics/housei/html/h-shuhou197.html、2020年1月4日閲覧
- 4) 厚生労働省社会保障審議会（介護給付費分科会）「介護人材の処遇改善について」、
<https://www.mhlw.go.jp/content/12601000/000406512.pdf>、2020年1月4日閲覧
- 5) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会「1介護福祉士養成施設への入学者数と外国人留学生(推移)」、<http://kaiyokyo.net/member/2018/000673/>、2020年1月4日閲覧
- 6) 「介護人材1万人受け入れ 政府20年目標 ベトナムと合意」『日本経済新聞』、2018年7月25日、朝刊、1面
- 7) 農林水産省「2. ベトナム調査(1) ベトナムの基礎情報」、
<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sijyo/info/attach/pdf/index-16.pdf>、2020年1月5日閲覧
- 8) 社会医療法人愛仁会、設立：1958年11月、所在地：大阪市西淀川区佃2-2-46、代表施設：高槻病院
- 9) 社会福祉法人生長会、開院：1955年11月、設立：1964年11月、所在地：大阪府和泉市府中町2-1-3、代表施設：ベルランド総合病院
- 10) 社会福祉法人ペガサス、開院：1984年10月、設立：1995年、所在地：大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244、代表施設：馬場記念病院
- 11) 「レベルの高い介護教育を始動 大阪APS介護スキルラボ」『地域介護経営』第184号、2018年10月、68-69頁
- 12) 厚生労働省 社会・援護局「技能実習「介護」における固有要件について」、
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12000000-Shakaiengokyoku-Shakai/0000182392.pdf>、2020年1月6日閲覧
- 13) 内閣官房健康・医療戦略室「アジア健康構想について」、
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryoku/kokusaitenkai/eiyo_bukai_dai2/siryou03.pdf、2020年1月4日閲覧